

彦根市内遺跡発掘調査報告書

稲部遺跡第8次

令和4年3月

彦根市

彦根市埋蔵文化財調査報告書第88集

彦根市内遺跡発掘調査報告書

稲部遺跡第8次

令和4年3月

彦根市



1 弥生時代後期後半から庄内式期の自然流路SR02 南から

例 言

1. 本書は、彦根市教育委員会（平成31年4月～市長直轄組織文化財課、令和2年4月～歴史まちづくり部文化財課）が、平成28年度に国庫補助および県費補助対象事業として実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、彦根市教育委員会文化財部文化財課が実施した。調査の体制は下記のとおりである。

平成28年度（現地調査）

教育長：善住喜太郎

文化財部長：馬場孝雄 文化財部次長：広瀬清隆 文化財課長：稲野善行

課長補佐兼管理係長：草川高章 史跡整備係長：北川恭子

文化財係長：三尾次郎 主査：深谷 覚 主査：池田隼人 主査：林 昭男

主査：戸塚洋輔 副主査：田中良輔 主任：小林圭一 主任：渡邊 輝 主任：下高大輔

主任：斎藤一真 主任：舟山友祐

臨時職員：沖田陽一 臨時職員：堀田佳典 臨時職員：小山佳祐

令和3年度（整理調査・報告書刊行）

彦根市長：和田裕行

歴史まちづくり部長：荒木城康 歴史まちづくり部次長：久保達彦

歴史まちづくり部参事兼文化財課長：井伊岳夫

課長補佐兼管理係長：牧田 歩

文化財係長：林 昭男 主査：戸塚洋輔 主査：田中良輔 技師：内藤 京

技師：舟山友祐

会計年度任用職員：沖田陽一 会計年度任用職員：樋口杏奈

3. 本書の編集は、第8次調査を担当した戸塚が行った。
4. 本書で使用した遺構実測図は、沖田陽一（臨時職員）、久保亮二（臨時職員）、伊田 匠（当時滋賀県立大学学部生）が作成した。遺物実測図は、第8次調査出土遺物は沖田、戸塚が、周辺の試掘調査出土遺物は春名英行（同志社大学学部生）が作成した。遺構と遺物の写真撮影は、戸塚が行った。
5. 本書で使用した方位は、平面直角座標第Ⅵ系の真北に、高さは東京湾平均海面に基づく。
6. 本調査で出土した遺物や写真・図面等は彦根市で保管している。
7. 本書で報告する土器の断面と種類の関係は、以下のとおりである。
弥生土器・土師器 須恵器

目 次

巻頭図版

例言

第1章

1	遺跡の概要	1
2	第8次調査区周辺の試掘調査成果	1
3	調査経過	5
4	調査成果	5
5	総括	15

図版

報告書抄録

第1章

1 遺跡の概要

稲部遺跡は、彦根市稲部町・彦富町に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。旧愛知川の支流の一つである文祿川に面した微高地上に立地している。1981年に実施された第1次調査以降、これまでの発掘調査により、弥生時代終末から古墳時代初頭を中心とした時期の竪穴建物、周溝付建物、掘立柱建物、金属器生産関連遺構・遺物が検出され、愛知川流域の拠点集落としての性格が明らかになってきている。稲部遺跡の西側には稲部西遺跡が隣接し、これらは一連の遺跡群として把握できる。周辺の当該期の集落遺跡としては、普光寺廃寺遺跡、屋中寺廃寺遺跡、肥田城跡があり、古墳時代前期後半では芝原遺跡の集落がある。現愛知川の対岸には、弥生時代後期後半の石田遺跡、弥生時代終末から古墳時代初頭に盛行して古墳時代中期に継続する大規模集落である斗西遺跡・中沢遺跡などが位置する。第8次調査区は、稲部遺跡のこれまでの調査としては、最東端に近い位置である。

2 第8次調査区周辺の試掘調査成果

第8次調査区周辺においてこれまでに実施した試掘調査成果について報告しておく。

個人住宅建設に伴う試掘調査（稲部町104番14 2006年6月8日実施）

第8次調査区から北約50mの地点では、2m四方のトレンチにおいて標高約90.20m以下で厚さ50cm以上の腐植物を多く含む青灰色粘土層が確認され、谷部に位置すると考えられる。この層からは庄内式期とみられる土器3点が出土している。甕の胴部片、高坏の脚部片、櫛描波状文を施す器台の口縁部片があり、高坏と器台を図示する。

個人住宅建設に伴う試掘調査（稲部町102番7 2017年10月7日実施）

第8次調査区から北東約40m、2006年6月試掘地点の道を挟んで南東近くの地点では、2m四方のトレンチにおいて、標高約90.20m以下で層厚約50cmの緑灰色～青灰色粘土の湿地性堆積層が確認され、谷部に位置する可能性がある。さらに下層の標高約89.70mではシルト混じり灰色粘土層のやや安定した土壌が確認されたが、遺構と遺物は確認されていない。

個人住宅建設に伴う試掘調査（稲部町102番14 2018年6月13日実施）

第8次調査区から東約20mの地点では、2m四方のトレンチにおいて、中世から近世の耕作土層の下、標高89.80m以下で層厚1.2m以上の腐植物を含む青灰色～緑灰色粘土層が確認され、谷部に位置すると考えられる。遺物は出土していない。

以上のように、第8次調査区周辺では湿地性の堆積層が広くみられ、旧地形は谷部に位置すると考えられ、氾濫流路の存在も想定される調査状況である。



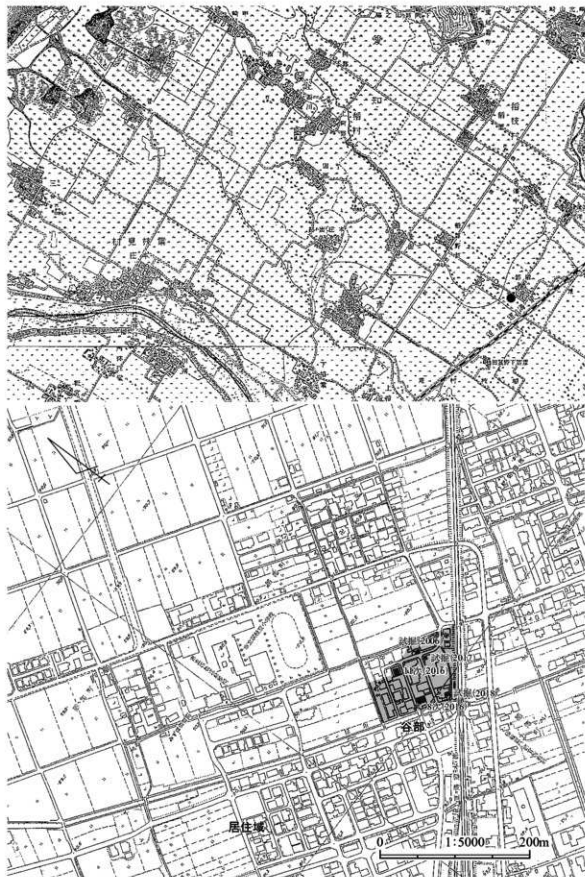
第1図 稲部遺跡群調査区位置図

第 1 表 稻部遺跡群調查一覽

	調査期間	調査所司	調査主体	調査面積	主な時代	主な遺構	文献
稲部第 1 次	昭和 56 年 (1981) 2 月 23 日～3 月 19 日	宅地造成	奈良県教育委員会	800 ㎡	弥生前期後半～古墳中期	溝・土溝	1
稲部第 2 次	平成 25 年 (2013) 7 月 24 日～ 平成 25 年 (2013) 12 月 21 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	790.65 ㎡	弥生終末～古墳前期初葉	惣穴建物、竪立柱建物、溝、土溝、土坑	2
稲部第 3 次	平成 26 年 (2014) 3 月 24 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	1,495.54 ㎡	弥生前期後半～奈良、古墳前期初葉	惣穴建物、溝・土溝	3
稲部第 3 次 2	平成 26 年 (2014) 7 月 24 日～ 平成 27 年 (2015) 3 月 27 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	600 ㎡	弥生前期後半～古墳前期	自然露頭	4
稲部第 3 次 3	平成 26 年 (2014) 7 月 24 日～ 平成 27 年 (2015) 3 月 27 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	1656.8 ㎡	弥生前期後半～古墳初期	惣穴建物、竪立柱建物、溝、方形区画溝、土坑	4
稲部第 4 次	平成 26 年 (2014) 11 月 21 日～12 月 9 日	個人住宅	奈良県教育委員会	102 ㎡	弥生前期後半～古墳初期	惣穴建物、溝	7
稲部第 5 次	平成 27 年 (2015) 6 月 23 日～6 月 30 日	個人住宅	奈良県教育委員会	64.55 ㎡	弥生時代終末～古墳初期	溝・土坑	8
稲部第 5 次 2	平成 27 年 (2015) 6 月 23 日～ 平成 27 年 (2015) 12 月 11 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	1,642.23 ㎡	弥生前期後半～古墳時代初葉	自然露頭、惣穴建物、竪立柱建物、区画溝、土溝	—
稲部第 7 次	平成 27 年 (2015) 12 月 11 日～ 平成 29 年 (2017) 3 月 24 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	430.37 ㎡	弥生前期後半～古墳前期	惣穴建物、竪立柱建物、方形区画溝、区画溝	—
稲部第 8 次	平成 28 年 (2016) 4 月 18 日～5 月 18 日	個人住宅	奈良県教育委員会	53 ㎡	弥生前期後半～古墳前期	自然露頭	9 (本書)
稲部第 9 次	平成 28 年 (2016) 5 月 19 日～6 月 19 日	商業区画工事	奈良県教育委員会	496 ㎡	古代～中世	惣穴建物、竪立柱建物、土坑	5
稲部第 10 次	平成 28 年 (2016) 7 月 15 日～ 平成 29 年 (2017) 3 月 24 日	市道改良工事	奈良県教育委員会	668.59 ㎡	弥生前期後半～古墳前期、平安末～中世	惣穴建物、土坑、木柱基、溝、溝	—
稲部第 11 次	平成 28 年 (2016) 8 月 20 日～9 月 30 日	個人住宅	奈良県教育委員会	80.25 ㎡	弥生終末～古墳初期	自然露頭	—
稲部第 13 次	平成 29 年 (2017) 9 月 8 日～10 月 8 日	個人住宅	奈良県教育委員会	66 ㎡	古墳前期～古代	自然露頭・5I・12 大溝	8
稲部第 13 次 2	平成 29 年 (2017) 1 月 18 日～3 月 31 日	個人住宅	奈良県教育委員会	121 ㎡	弥生前期後半～古墳中期	惣穴建物、大溝	—
稲部第 14 次	平成 29 年 (2017) 年 4 月 18 日～6 月 8 日	分譲住宅	奈良県教育委員会	165.36 ㎡	弥生前期後半～古墳中期	大溝、土坑	6
稲部第 15 次	平成 29 年 (2017) 年 6 月 15 日～8 月 30 日	個人住宅	奈良県教育委員会	82 ㎡	弥生中期後半～古墳前期	惣穴建物、溝、土坑	—
稲部第 16 次	平成 29 年 (2017) 年 7 月 16 日～9 月 15 日	個人住宅	奈良県教育委員会	112 ㎡	弥生前期後半～古墳前期	惣穴建物	—
稲部第 17 次	平成 29 年 (2017) 年 7 月 13 日～14 日	分譲住宅	奈良県教育委員会	12 ㎡	弥生終末～古墳初期	大溝	—
稲部第 18 次	平成 29 年 (2017) 年 8 月 1 日～3 月 30 日、 平成 29 年 (2017) 年 2 月 23 日～12 月 28 日	農圃確認	奈良県教育委員会	329 ㎡	弥生終末～古墳初期	土坑、柱穴、溝・土坑・土溝	—
稲部第 19 次	令和元年 (2019) 年 8 月 27 日～ 令和 2 年 (2020) 年 1 月 27 日	宅地造成	奈良市	331.92 ㎡	弥生前期後半～古墳前期、平安後葉	大溝、溝、竪立柱建物	—
稲部第 20 次	令和元年 (2019) 年 7 月 31 日～8 月 2 日	個人住宅	奈良市	33 ㎡	弥生終末～古墳初期	自然露頭・6I・12 大溝	—
稲部第 21 次	令和元年 (2019) 年 8 月 26 日～8 月 30 日	個人住宅	奈良市	2 ㎡	弥生終末～古墳初期	土坑、柱穴	—
稲部第 22 次	令和 2 年 (2020) 年 1 月 9 日～ 令和 2 年 2 月 9 日	個人住宅	奈良市	68.93 ㎡	弥生終末～古墳初期	大溝・土坑	—
稲部第 23 次	令和 2 年 (2020) 年 2 月 7 日～8 日	個人住宅	奈良市	19 ㎡	弥生終末～古墳初期	土坑	—
稲部第 23 次 2	令和 2 年 (2020) 年 7 月 21 日～9 月 4 日	個人住宅	奈良市	71.21 ㎡	弥生終末～古墳初期、中世	柱穴、溝、土坑	—
稲部第 23 次 3	平成 29 年 (2017) 年 11 月 1 日～12 月 28 日	農圃確認	奈良市	430.27 ㎡	弥生終末～古墳初期	惣穴建物、竪立柱建物、溝、方形区画溝、土坑	—
稲部第 26 次	令和 2 年 (2020) 年 8 月 20 日～10 月 9 日	農圃確認	奈良市	430.27 ㎡	弥生終末～古墳初期	惣穴建物、竪立柱建物、溝、方形区画溝、土坑	—
稲部第 3 次 2	令和 2 年 (2020) 年 11 月 26 日～12 月 10 日	市道改良工事 試験調査	奈良市	52 ㎡	弥生終末～古墳初期	溝、土坑	—
稲部第 27 次	令和 2 年 (2020) 年 5 月 31 日～7 月 22 日	宅地造成	奈良市	10 ㎡	弥生終末～古墳初期	溝、土坑	—
稲部第 28 次	令和 3 年 (2021) 年 4 月 26 日～9 月 30 日	市道改良工事	奈良市	200 ㎡	弥生終末～古墳初期	溝	—
稲部第 29 次	令和 3 年 (2021) 年 6 月 11 日	個人住宅	奈良市	4 ㎡	弥生終末～古墳初期	土坑	—
稲部第 30 次	令和 3 年 (2021) 年 7 月 4 日～8 月 5 日	個人住宅	奈良市	49 ㎡	弥生終末～古墳初期	大溝・6I・12 区画溝	—

文献

- 1 奈良県教育委員会 1982 『稲部遺跡群調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 3 集
- 2 奈良県教育委員会 2013 『稲部遺跡第 2 次発掘調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 61 集
- 3 奈良県教育委員会 2014 『稲部遺跡第 3 次発掘調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 62 集
- 4 奈良県教育委員会 2016 『稲部遺跡第 2 次・稲部遺跡第 2 次発掘調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 66 集
- 5 奈良県教育委員会 2018 『稲部遺跡第 9 次発掘調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 71 集
- 6 奈良県教育委員会 2018 『稲部遺跡第 14 次発掘調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 72 集
- 7 奈良県教育委員会 2019 『平成 36 年度奈良市内遺跡群調査報告書』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 76 集
- 8 奈良市 2020 『奈良市内遺跡群調査報告書 稲部遺跡第 5 次・第 12 次』奈良県埋蔵文化財調査報告書第 80 集
- 9 奈良市 2022 『奈良市内遺跡群調査報告書 稲部遺跡第 8 次』奈良市内遺跡群調査報告書第 88 集



第2図 稲部遺跡と第8次調査区の位置

3 調査経過

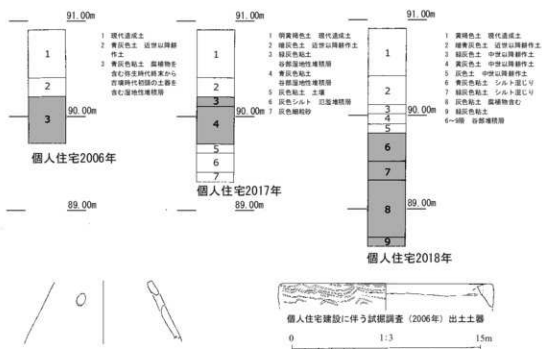
今回の調査は、個人住宅の建設に伴う文化財保護法第93条の届出及び調査依頼に基づくもので、稲部遺跡の第8次調査である。試掘調査の結果に基づき、柱状改良工事によって遺構に影響の及ぶ建物部分を調査区として、平成28年4月18日から5月18日にかけて調査を行った。調査地は、彦根市稲部町105番12に位置する。調査面積は53.00㎡である。調査は表土掘削にはバックホーを用い、その後、人力掘削により調査を行った。

4 調査成果

(1) 基本層位

調査区の基本層序は、上層から、第1層 明黄褐色土（現代造成土）、第2層 砂混じり暗青灰色土（近現代の耕作土）、第3層 砂混じり灰色粘土（近世の耕作土）、第4層 黄褐色粘土ブロックを含む緑灰色粘土（平安時代後期以降の耕作土）、第5層 シルト混じり青灰色粘土（氾濫原堆積層）である。

遺構検出は、第1面として中世の遺構面である第4層上面で行い、幅約30から40cmの溝が南北方位で平行して複数検出された。また、複数の柱穴を含む小穴、土坑、南北方位の複数の溝とは方位が異なる溝1条を検出した。第1面の調査の後、第4層の掘り下げを行い、第2面として下層の弥生時代後期後半から古墳時代の自然流路の調査を行った。



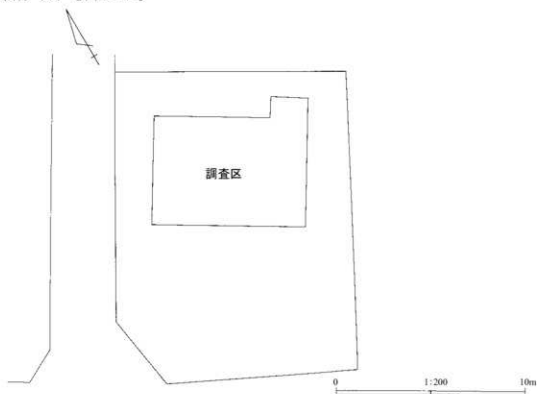
第3図 第8次調査区周辺試掘調査地点の土層堆積状況と出土土器

(2) 遺構と遺物

弥生時代後期後半から古墳時代後期

第2面として調査を行った遺構面では、調査区のほぼ全域で弥生時代後期後半から古墳時代後期にかけての南北方位の複数時期の自然流路が検出された。

SR02 SR01より下位の自然流路で、幅3.3m、深さ70cm以上を測る。確認することができた最低位の標高値は、調査区中央南寄りの位置で90.00m、調査区中央北寄りの位置で90.10～90.15mである。ややかたくしまり、遺物を含まない青灰色粘土層までは確認し、これより下層は確認できていない。この青灰色粘土層より上位の暗青灰色粘土層は腐植物を含み、やや水流が滞っていたことが想定される。SR02では弥生時代後期後半から庄内式期の土器（1～9）、須恵器（10・11）が出土した。1、2は壺の底部である。弥生時代後期後半から末の土器として、3、4の口縁部外面や肩部に刺突のある甕、8の波状文のある鉢がみられる。9は高坏である。石器（12～14、16）も出土し、12は、残存長10.7cm、残存幅6.6cm、厚さ5.5cm、350gで、湖東流紋岩製の敲石とみられる。13は、残存長8.7cm、残存幅3.2cm、残存厚3.2cm、100gで、硬質砂岩製の敲石片である。14は、残存長4.6cm、幅5.3cm、残存厚4.8cm、120gで、敲打痕がみられ、敲石とみられる。花崗岩製で、黒く変色した範囲も認められ、被熱痕跡とみられる。上面は砥石としても使用されている可能性がある。16は、長さ16.2cm、幅6.0cm、厚さ4.9cm、740gで、断面が丸みをもった方形の敲石である。両端部に敲打痕が認められる。12～14、16の石材は、湖東流紋岩類である。長さ37.95cm、最大径5.6cmの柱材（24）、棒状の割材（26）も出土した。



第4図 第8次調査区位置図

SR02は、弥生時代後期後半から庄内式期を中心とする時期の埋没流路とみられ、出土した土器と石器は、この時期に所属する可能性が高いと考えられる。ただし、須恵器（10・11）は、SR02より上位の堆積層から混ざり込んだ可能性がある。

SR03 調査区西端で確認された堆積層で、深さ50cm以上の自然流路と推定される。底までは確認できていない。腐植物を含み、SR02に切られるが、SR02の堆積層と層相にあまり違いがなく、両者に大きな時期差はないものと考えられる。桃核（28・29）2点が出土した。28は、残存長2.20cm、残存幅1.45cm、残存厚0.65cmである。29は、残存長1.10cm、残存幅1.10cm、残存厚0.50cmである

SR01 最大幅4.5mを測り、層厚10cmで、上層の第4層に切られている可能性が高い自然流路である。庄内式期から布留式期初頭の土器（17～22）、古墳時代後期の須恵器（23）、長さ16.2cm、幅7.0cm、厚さ5.3cm、1,040g、断面方形の花崗岩製の砥石（15）、棒状の割材（25）、桃核（27）が出土した。27は、長さ2.45cm、幅2.05cm、厚さ1.70cmである。02に続いて堆積した幅が狭い庄内式期から布留式期初頭を中心とする時期の自然流路と考えられる。古墳時代初頭以降、古墳時代後期にかけて埋没が進んだものと想定される。

中世前期以降

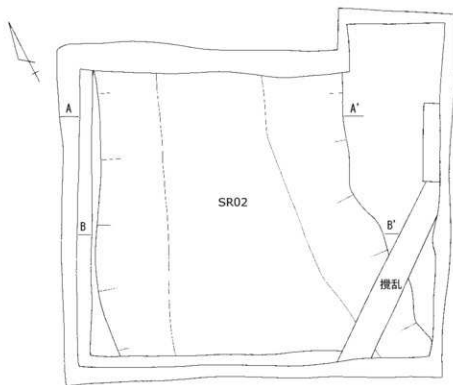
第1面として調査した遺構面では、8条以上の平行する溝SD01・02・03・06・08・10・12・13・14、これらの溝とは方位を異にする溝SD17、複数の柱穴を含む小穴、土坑が検出された。SD12と14は一連の溝である可能性がある。これらの溝は条里方向に沿うもので、耕作に関わる溝と考えられる。柱痕跡がみられる柱穴は調査区西側に多く、径約30～45cmの柱穴が北東-南西方向の柱列状に並び、調査区外へ展開する可能性がある。これらの柱穴、小穴の埋土は黄褐色～暗褐色粘土のブロックを含む暗灰色～青灰色シルトである。SP02では径5.6cmの柱根（30）が残り、SP03からは復元口径20.0cmで、外面は浅黄褐色、内面は灰黄褐色で、ほとんど黒色化していない土師器椀片（31）が出土したことから、これらの柱穴の多くは中世前期あるいはその前後の時期のものと考えられ、条里溝を切るものがある。柱穴が複数検出されたが、調査区内では明確な建物跡としてみなすことは難しい。一方、SD17は、これらの柱列状をなす柱穴群とは直交する位置関係にある。以上のことから、中世前期頃に条里溝が掘削された後、SD17と複数の柱が列状に設けられたことが推定される。



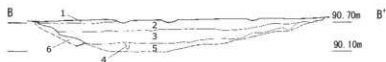
第5図 第2面SR02流路のトレンチ掘削



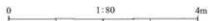
第6図 第2面SR02流路の掘り下げ



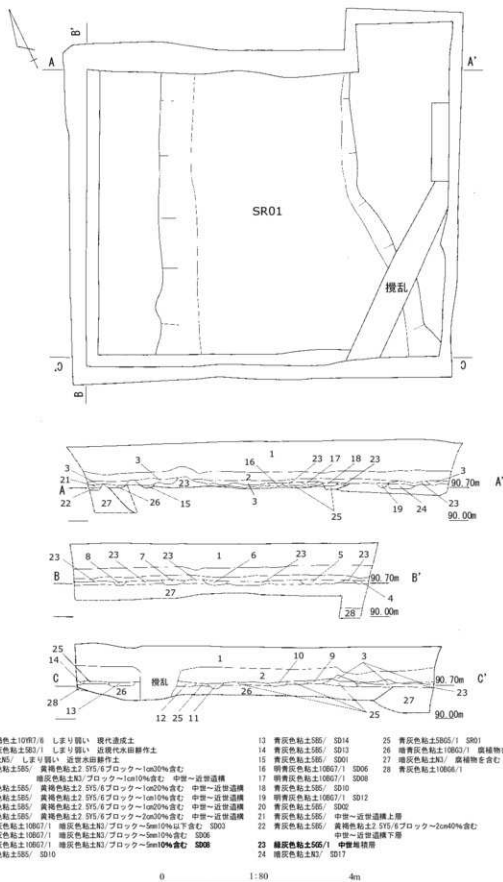
- 1 緑灰色粘土5G5/1 黄褐色粘土2.5Y5/6ブロック~1cm30%含む 中世堆積層
- 2 黄灰色粘土5B65/1 SR01
- 3 暗黄灰色粘土10B63/1 腐植物を含む 鉄分を多く含む SR02
- 4 暗黄灰色粘土10B63/1 腐植物を含む 黄灰色粘土5B65/1ブロック~4cm10%含む SR02
- 5 黄灰色粘土10B66/1 SR02
- 6 暗灰色粘土N3/ 腐植物をわずかに含む SR03
- 7 暗灰色粘土N3/



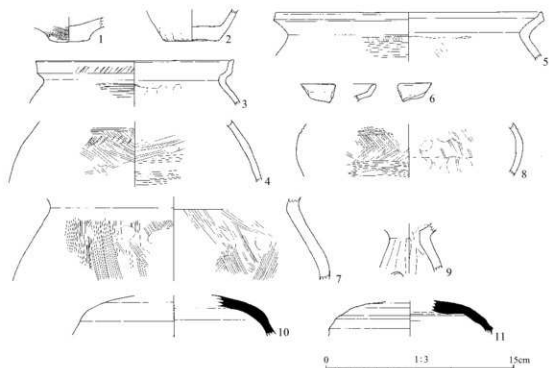
- 1 緑灰色粘土5G5/1 黄褐色粘土2.5Y5/6ブロック~1cm30%含む 中世堆積層
- 2 暗黄灰色粘土10B63/1 腐植物を含む 鉄分を多く含む SR02
- 3 暗黄灰色粘土10B63/1 黄灰色粘土5B65/1ブロック~4cm10%含む 腐植物を含む SR02
- 4 暗灰色粘土N3/ 鉄屑の可能性
- 5 黄灰色粘土10B66/1 SR02
- 6 暗灰色粘土N3/ 腐植物をわずかに含む 鉄分少し含む SR03



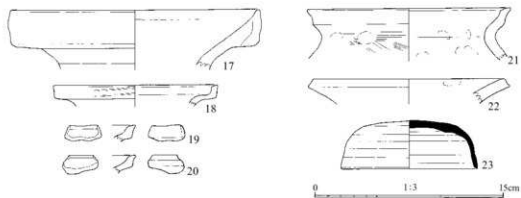
第7図 弥生時代後期後半から古墳時代初頭遺構面 SR02



第8図 弥生時代後期後半から古墳時代初頭遺構面 SR01・調査区壁面土層図



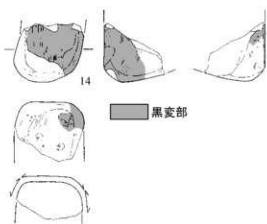
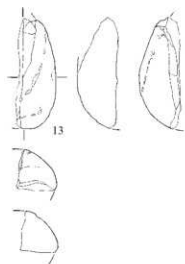
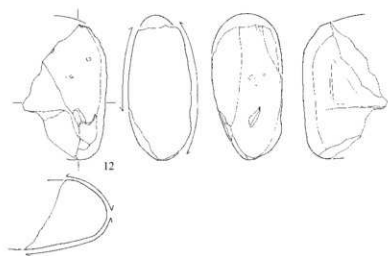
第9图 SR02出土土器实测图



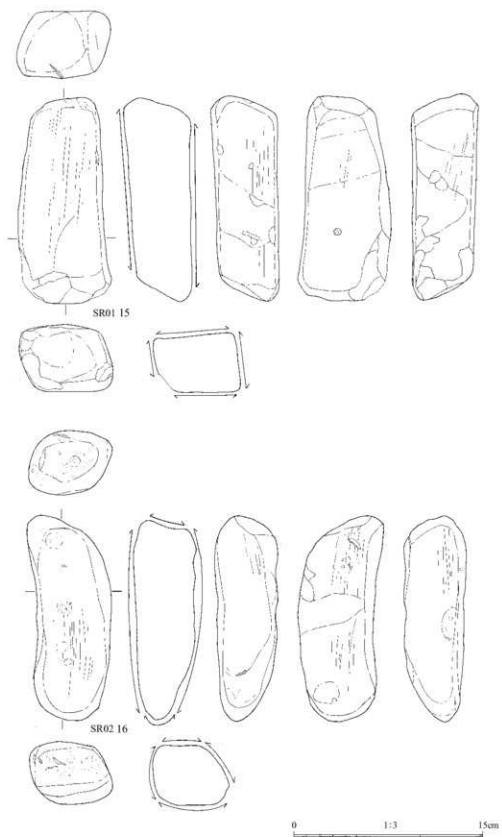
第10图 SR01出土土器实测图



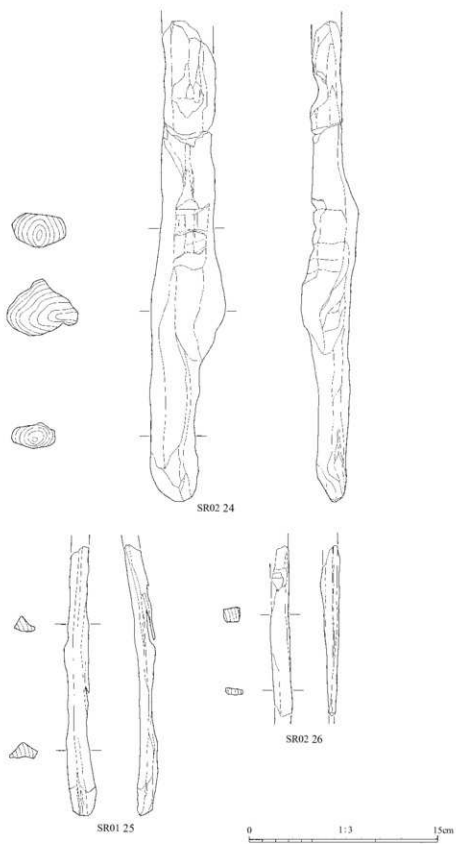
第11图 SR01・03出土桃核实测图



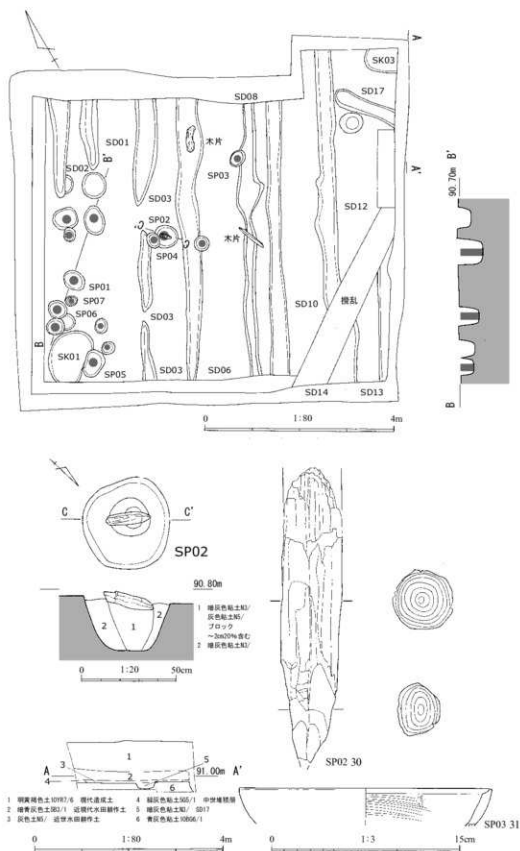
第 12 図 SR02 出土石器実測図



第13图 SR01・02出土石器实测图



第14图 SR01·02出土木器实测图



第15図 中世遺構面調査区全体図と主な遺構・遺物実測図

5 総括

(1) 自然流路の変遷

第8次調査では、詳細な方位は不明であるが、ほぼ南北方位の弥生時代後期後半から庄内式期の自然流路SR02、これと近い時期と推定される自然流路SR03、庄内式期から布留式期を中心とする時期と考えられる自然流路SR01の複数時期にわたる埋没流路が検出された。時期を経るとともに堆積作用が進み、少しずつ位置を変えて流路が形成され、最上層に位置するSR01が古墳時代初頭から古墳時代後期にかけて埋没し、陸地化した様子を示す。流路の変遷としては、SR02⇔SR03→SR01となり、第4次調査区周辺から西一帯で確認されている弥生時代後期後半から古墳時代初頭の居住域とほぼ併行する時期の自然流路と考えられる。陸地化した後には、中世前期以降に主に耕作地としての土地利用が行われた可能性が高い。

これらの弥生時代後期後半から古墳時代初頭の埋没流路は、旧愛知川の主な流路のうちの一つと考えられ、周辺の調査成果との比較検討から、第1次調査区の北を東西に流れる氾濫流路に接続している可能性が想定される。腐植物を含む堆積層があり、周辺の試掘調査で確認されている腐植物や土器を含む湿地性堆積層も第8次調査の自然流路との関係性を示すものと推定される。以上の周辺の微地形との比較から、第8次調査区とその周辺の旧地形が谷部であったことが想定できる。

(2) 調査成果と課題

自然流路SR02・01からは弥生時代後期後半から布留式期初頭の土器が出土し、これまでに確認された主体となる居住域とほぼ併行する時期の流路であると考えられる。これまでの調査成果をふまえると、第8次調査区とその周辺は、稲部遺跡の弥生時代後期後半から布留式期初頭にかけての集落としては、北東縁辺部の谷部の一面に位置する可能性が考えられる。

あわせて第8次調査区周辺では、南西側の掘立柱建物、金属器生産関連遺構・遺物、大溝が位置する第14次調査区、その南に位置して大溝が続く第22次調査区では、大溝から当該期を含む土器が多数出土し、周辺では居住域の存在も想定されることから、第8次調査区の南西側の状況が今後問題になると考えられ、周辺の微地形と遺構の様相から把握していく必要がある。

参考文献

- 彦根市教育委員会 2015『稲部遺跡第2次発掘調査報告書』彦根市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 彦根市教育委員会 2015『稲部西遺跡第1次発掘調査報告書』彦根市埋蔵文化財調査報告書第62集

彦根市教育委員会 2016『稲部遺跡第3次・稲部西遺跡第2次発掘調査報告書』彦根市埋蔵文化財調査報告書第66集

彦根市教育委員会 2018『稲部遺跡第9次発掘調査報告書』彦根市埋蔵文化財調査報告書第71集

彦根市教育委員会 2018『稲部遺跡第14次発掘調査報告書』彦根市埋蔵文化財調査報告書第72集

彦根市教育委員会 2019「第5章 稲部遺跡(第4次)」『平成26年度彦根市内遺跡発掘調査報告書2』彦根市埋蔵文化財調査報告書第76集

彦根市 2020『彦根市内遺跡発掘調査報告書 稲部遺跡第5次・第12次』彦根市埋蔵文化財調査報告書第80集



1 弥生時代から古墳時代遺構面全景 南から



2 SR02 南東から

図版 2



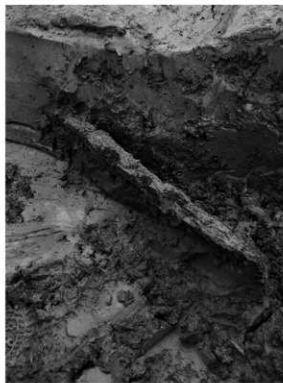
1 SR02 南から



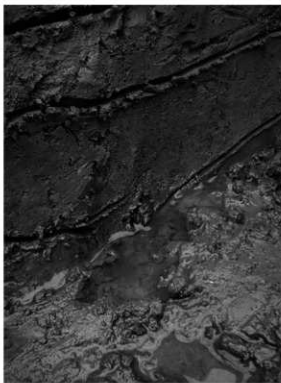
2 SR02土層断面



1 調査区西壁土層



2 SR02木器出土状態



3 SR03桃核出土状態

図版 4



1 調査区北壁土層



2 SR01 土器出土状態



3 SR01 土器出土状態



1 中世遺構面全景 南東から



2 中世遺構面全景 東から

図版 6



1 中世遺構面全景 南から



2 中世遺構面全景 北西から



1 中世遺構面 耕作溝と柱穴群 東から



2 SP02 西から



3 SP02土層断面 西から

図版 8



1 中世遺構面SD17 西から



2 中世遺構面SD17・SK03 南から



1~9

1 SR02出土土器



12 · 13 · 14

2 SR02出土石器



16

3 SR02出土石器



1 SR01出土土器



2 SR01出土石器



3 SR02出土木器



1 SR01 · 02出土須恵器



2 SR02 · 03出土桃核



3 SP03出土土師器椀



4 SP02出土柱根

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひこねしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	彦根市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	稲部遺跡第8次							
巻次								
シリーズ名	彦根市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第88集							
編著者名	戸塚洋輔							
編集機関	彦根市歴史まちづくり部文化財課							
所在地	〒522-8501 彦根市元町4番2号 TEL. 0749-26-5833							
発行年月日	20220331							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
稲部遺跡 (第8次)	彦根市 稲部町	25202	131	35度 12分 19秒	136度 11分 47秒	53.00㎡	20160418 ～ 20160518	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構・遺物		特記事項		
稲部遺跡 (第8次)	集落	弥生・古墳		自然流路				

彦根市埋蔵文化財調査報告書第88集

彦根市内遺跡発掘調査報告書

稲部遺跡第8次

令和4年（2022年）3月31日発行

編集・発行：彦根市歴史まちづくり部文化財課

彦根市元町4番2号

TEL 0749-26-5833

印刷・製本：有限会社田中印刷所

HIKONE CITY EXCAVATION REPORT
INABE SITE 8th

2022